

学年	教科等	単元名	児童	場所	指導者
5年	国語科	「考えを明確にして話し合い、提案する文章を書こう」	5年1組36名	5年1組教室	中山 敬史

育てたい資質・能力

◎国語科において育成を目指す資質・能力から本時にかかわる主な資質・能力

情報を多面的・多角的に精査し構造化する力(思考力・判断力・表現力)

〈本時にかかわる主な資質・能力〉

グループで決めたテーマについて、提案する内容を明確にするために意見を出し合い、その内容を構成メモの形式にしてまとめる力

1 単元について

(1) 単元の目標と評価規準

【単元の目標】

自分たちの身の回りにある問題点について調べ、改善するための提案書を作成することができる。

本単元は、学習指導要領「第5学年及び第6学年」の内容

A 話すこと・聞くこと

ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。

エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。

B 書くこと

ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。

イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。

ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。

カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。

を受けて設定したものである。

本単元は、よりよい生活を送るために、自分達にできることややりたいことを考え、個々の考えをもち寄って協議し、提案書を書いて読んでもらうという「話す・聞く」と「書く」の複合単元学習になっている。

単元を貫く言語活動としては、言語活動例イを具現化し、「自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること」を位置付けた。

第1次の「話す・聞く」では、身の回りの諸問題についてグループで話し合うことで、自分の考えを明確にしたり、現状や問題点、解決方法を探ったりして、解決の道筋を明らかにしていく。

第2次の「書く」では、グループで協力しながら、相手に伝わるように提案書を書く。書く活動をするにあたっては、一人一人が自主的・意欲的に活動する場面を保障するためにも、1グループを4人程度の構成とする。また、役割分担の際は、「現状」「問題点(改善点)」「提案」「提案の効果」の小見出しのいずれかを担当することとする。

学習計画を立てる際は、単元を通した活動の流れを作成し、教室に掲示しておくことで進行のプロセスが視覚化でき、見通しをもった学習活動を可能となる。そうすることで、学習が先に進んでいるグループにアドバイスをもらうなど、子どもたちがより協働的な雰囲気の中で主体的・意欲的に学習活動を展開し

ていくことを期待したい。

出来上がった提案書については、実際に地域や学校に提案することで、相手意識や目的意識を明確にもち、率先して提案書を書こうとする意欲の向上を促していきたい。

【評価規準】

【国語への関心・意欲・態度】	【話す・聞く能力】	【書く能力】	【言語についての知識・理解・技能】
<ul style="list-style-type: none"> ・問題について調べ、解決のための提案書を書くということに関心を持ち、問題に関する情報を集めたり、自分の考えをまとめたりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収集した知識や情報を関連付けて話し合っている。 ・話題に対する自他の考え方、感じ方の違いを知り、それを表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集の方法を知り、それらの方法を用いて情報を集めている。 ・提案書に書く内容を明確にして書いている。 ・事実と感想、意見を区別して、目的や意図に応じて提案書を書いている。 ・書いたものを読み合い、よりよくなるよう推敲している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉から受ける感じや、言葉の使い方について関心を持ち、説得力が増すように表現を工夫している。

(2) 児童の実態

本学級は、学習課題に対して、意欲的に取り組むことができる児童が多い。また、互いの考えのよさを認め合うことができ、ペアやグループでの話し合いでは、積極的に自分の考えを伝える児童が多い。しかし、全体の場面では自らの考えや意見を積極的に発表できる児童が限定していることが課題である。

「書くこと」については、これまで報告書、説明書、新聞、ポップ作り、手紙文など、様々分種・形式について学習している。本単元の重点でもある「記述」については、つながりのある文章を書くこと、中心の明確な文章を書くこと、必要に応じて理由や事例を挙げて書くことなどを学んできた。5年生では、「次への一步～活動報告書～」で、友達と協力しながら事実と意見を区別して書くことを経験している。この学習では、どの児童も自分の担当部分については観点に沿った記述をすることができていたが、読み手に分かりやすい工夫が難しかったりする児童も見られた。

日常実践については、4月より朝学習の時間に百マス作文に取り組んでいる。書くことに対してそれほど抵抗感を感じられず、百マス作文では、様々なテーマに対する自らの見解を展開することができている。他にも、新聞の記事を読み、事実と意見に分けて文章を書くことにも取り組んでいる。

(3) 指導の手立て

児童は、学年が上がるに連れ、学級、学年、学校、地域…と自分の考えの及ぶ範囲が広がってきている。広い視点をもつことができる一方、様々な問題・改善点も存在しているが、それに気付かずにごろごすることが多い。切実な問題点を抱えていないというのは生活が安定し恵まれている証拠でもあると考える。もし、仮に気づいていたとしても、解決しようと行動する子、解決するための方法を知っている子は少ないと考える。このような経験の少ない児童に、「身の回りにある問題を見つけよう」と問うても、話題が広がりにくいし、どのように解決していくかのイメージもつかみにくい。また、問題を見つけたとしても、自分たちで解決できないものや解決の見通しの立たないものも多いと考える。そこで、単元の導入時に、意欲を醸成したり、単元の見通しをもたせたりする活動をすることで、より主体的な学びにつなげていきたい。具体的には、単元の初めに教師側で地域が抱える問題の一例を写真で提示し、学級で話し合いをする活動を設ける。話し合いを通して、地域の問題に気付く目をもたせたい。そして、解決のプロセスについても深く考えさせていきたい。その後、考えたり調べたりする時間を確保し、自分なりの問題意識のもと、改善案を考えさせたい。しかしながら、どのように解決していくか道筋がわからないという児童も多いと考

える。本来、児童にとっての身近な問題は児童会活動が主となって解決すべき問題であるが、その児童会活動の意義や組織について理解が不十分の児童が多い。そこで、学活の時間を利用し、意義などを確認するオリエンテーションを開き、児童会という活動をより身近な活動にしていく。また、委員会活動についても、同様に、前年度の活動内容の活動計画の踏襲ではなく、創意工夫ができるものということを理解させたい。そうすることで、児童会活動の中で、自分達の考えが反映されるということを学ばせていきたい。同様に、地域の問題点・改善点についても、自分達の意見が反映されるということを学ばせたい。

学習の振り返りについては、ノートに記述することを基本とするが、「振り返りシート」も併用する。この「振り返りシート」は、後に記述するルーブリックとの関連を図り、児童が身に付けた学びや力を俯瞰できるようにする。

評価規準については、ルーブリックを導入する。ルーブリックは、様々な活動・段階において提示されるものであり、今回は大きく、「話す・聞く」「書く」の活動に分けて提示する。

このルーブリックを単元の最初や授業の導入時に、児童に提示することで、子ども達は到達すべき姿が明確になって活動を展開することができると思う。よって、児童が確実に理解し、判断基準が明確になるような記述にしなくてはならないと考える。

評価は、自己評価を基本とする。これは、教師側が設定した身に付けさせたい力を基にした内容（3～4つ提示）の達成状況で判断する。「A基準」は、全ての児童が達成すべき基準と考えている。「S基準」はA+αの基準として考えており、高次の基準ではあるが、その達成に向けて児童に努力させたい基準である。BとCの下位基準については、一つ上の基準になるように「サンプル文」や友達の表現をヒントにしたり、対話をしたりする等の手立てを講じ、課題を解決できるようにしていく。

この基準を決める内容は、教師と児童とが話し合い設定することで、学びの自覚を促すことを意識できると考える。しかし、今回は、身に付けさせたい力を明確にするために教師側が設定した。

単元の最後にはルーブリックを生かして総括的評価をし、児童の習得状況を把握し、指導の改善・工夫に役立てていきたい。

2 単元の指導計画 【14時間扱い 本時8/14時間】

次	時間	○学習活動	教師の評価規準（評価方法） ◇到達が不十分な児童への指導の手立て
1	①	○提示された写真の問題点について考える。 ○教師が作成した例文から、身の回りの問題や提案書の書き方について話し合い、学習計画を立てる。 身の回りにある問題について考え、よりよい生活を実現するための提案書を書こう。	㊦身の回りの問題について意見文を書くという学習について関心や見通しをもっている。（発表・ノート） ◇自分たちの生活の様子を想起させ、困った経験等を引き出す
1	② ③ ④	○自分の取り上げたい問題に関する情報を集め、自分の意見をまとめる。 改善ポイント① 1次に児童自身で提案書の視点を設定する時間を加える。	㊦情報収集の方法を知り、情報を集めたり、意見をまとめたりしている。（ノート） ◇問題に合った資料を紹介する。

2	⑤	○個人で調べた問題についてグループで協議し、提案する問題を決定する。	㊦自他の意見の違いを踏まえ、収集した知識や情報を関連付けて話し合っている。(話し合い)
	⑥	○グループで提案する問題について、再調査したり、資料を集めたりする。	◇友達の見解の良さや自分の意見との共通点に気付かせる。
	⑧ 本 時	○「事実」と「感想・意見」を書き分けることについて理解する。	㊦決まった問題について、グループで話し合い、提案書に書く内容を明確にしている。(話し合い・構成メモ)
		○提案書の内容を明確にするため、「現状」「問題点」「提案」「提案の効果」についてグループで話し合い、構成メモにまとめる。	◇教師作成の構成メモを示し、話し合いの視点を明確にさせる。
	⑨	○提案書の書き方を確認し、グループで作成した構成メモを見直したり、自分が担当する部分を決定したりする。	㊦構成や内容を考えて、提案書の見直しをすることができる。(構成メモ)
			◇教師作成の構成メモに着目させ、十分でない点に気付かせる。
⑩	○構成メモに沿って、自分の担当部分を書く。 ○グループで持ち寄り、全体のつながりがよくなるように話し合いながら、一つにまとめる。	㊦構成メモに沿って目的や意図を意識しながら担当部分を書いたり、文章のつながりを考えて修正したりしている。 (話し合い・提案書の下書き)	
		◇つながり部分に着目させ、「そこで」「しかし」などの接続詞を提示する。	
⑪	○提案書の下書きについて、誤字や脱字、表現などについてグループで推敲する。	㊦読み手を意識し、読みやすさや説得力が高まるように提案書を推敲している。 (話し合い・提案書の下書き)	
		◇教師作成の例文に着目させたり、辞書の活用などを助言したりする	
⑫	○提案書を修正し、清書する。 ○完成した提案書を、再度読み合い確認する。	㊦推敲を基に、提案書を清書している。 (提案書)	
		㊦説得力が増すように、表現を工夫して書いている。 (提案書)	
		◇教師作成の例文に着目させる。	
3	⑬	○完成した提案書を、グループで交換して読み合い、感想を交流する。	㊦説得力を視点に他グループの提案書を読み、構成や表現などについて感想を交流している。 (発言)
			◇納得できる部分に着目させる。
⑭	○これまでの学習から身に付けたことやおもしろさについて交流し、成果や今後に向けた思いをまとめる。	㊦協議の仕方や提案書の書き方などについて交流し、これまでの学習について振り返っている。 (ノート)	
		◇完成した提案書の良さに着目させる。	

3 本時の学習

(1) 本時の目標

グループで決まった問題について、構成メモを作り、提案する内容を明確にすることができる。

(2) 本時の展開【14時間扱い 8/14時間目】*一単位時間レベルB-②【対話重視】

	子どもの活動	思考	□教師の働きかけ ◆評価(評価方法)
導入 5分	1 前時までの学習を振り返る。 2 本時の課題を把握する。	全体	□これまでの学習を振り返らせ、構成メモを作る必要性に気付かせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 提案書に書く内容をはっきりさせ、構成メモにまとめよう！ </div>			
展開 30分	3 「現状」「問題点」「提案」「提案の効果」についてグループで話し合い、構成メモに書く内容を明確にする。 4 必要に応じて話し合いながら小見出しに沿って、構成メモを書いていく。 5 各グループで話し合ったことや書いている内容について交流する。付箋紙をもとに、意見を整理したり、関連付けたりしながら話し合いを進めていく。	個 ↑↓ グループ	□「事実」と「感想・意見」を書き分けることを理解させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 改善ポイント② 「事実」と「感想・意見」のかき分けについては前時の後半でおさえるようにし、対話の時間を十分に保障する。 </div> □ルーブリックを確認し、本時のゴールを具体的にイメージさせる。 □教師作成の構成メモ配付し、参考にさせる。 * 提案書に載せる内容を明確にするために、グループで付箋紙を用いながら意見を出し合う。そして、それらの内容が妥当なものかどうかを話し合う。 □各グループの作業の進み具合を確認しながら、適宜助言する。 ◆決まった問題について、グループで話し合い、提案書に書く内容を明確にしている。 (構成メモ)
終末 10分	6 本時のまとめ	全体	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 小見出しに整理したり、事実と感想・意見を区別したりして構成メモを作ると、提案書の内容がはっきりし、書きやすくなる。 </div>
	7 本時の学習の振り返りを行う。		□本時の成果や次時の課題を確認させる。

(3) 本時の評価

◇評価規準の具体 (評価方法～観察, 発言, 作品)

【書くこと】

十分満足できる (A) : 決まった問題についてグループで話し合い、小見出しに整理したり、事実と意見を区別したりして、提案書に書く内容を明確にしている。

おおむね満足できる (B) : 決まった問題について、グループで話し合い、提案書に書く内容を明確にしている。

努力を要する児童への指導 : 事実と意見を区別できるように支援する。

4 取り入れたアクティブ・ラーニングの視点と授業改善のポイント

(1) 授業のねらい

【アクティブ化シートB-② (対話重視)】

～小グループで思考を広げ深める工夫～

これまで児童は、自分たちの生活で感じている問題点についてグループで考え、その現状について調べてきた。また、どうすればその問題が改善されるのかについても一人一人が意見をノートにまとめている。

本時では、グループで作成する提案書に載せる内容について対話を通して吟味していく。その際、「話し合う視点が明確であること」「意見を可視化すること」で、児童の対話の質が高まり、思考の広がりや深まりが期待できると考えた。そこで本時では提案書の内容にあらかじめ「現状」「問題点」「提案」「提案の効果」の4つの小見出しを設定している。このことにより、提案書の内容について話し合う視点が明確になる。また、話し合いを行う前に、自分の意見を付箋紙に書くようにさせる。付箋紙を用いて、意見が見える状態にしておくことで、友達との共通点や相違点、意見の妥当性や説得力などについて吟味しやすくなる。そのことを通して、指導事項である「目的や意図に応じて文章を書くこと」と、説得力のある表現」の達成につなげたい。

(2) 成果

- 付箋紙を使った話し合いによって、児童は意欲的に対話を行っていた。本時終了後の振り返りには、「スムーズに話し合いが進んだ」「アイデアがたくさん出た」「話し合いの時間が楽しかった」など、「付箋紙を用いた対話の良さ」を実感することができていた。
- 事前に設定した視点を示したワークシート上に付箋紙を貼らせていったことで、「どの視点の意見が少ないか、説得力が弱いかなど、児童の思考が停滞せず広がっていった。話し合う視点の明確化と意見の可視化によって、対話の質が高まった。

(3) 改善

改善のポイント①～対話の視点については、今回教師側から提示した。しかし、その視点の内容について十分理解できず、視点に合わない意見を付箋紙に書いていた児童も見られたことは本時の課題である。改善案としては、本単元1次の中に「児童自身で提案書の視点を設定する時間を加える」ことを考えた。①小見出しの無い提案書のサンプルを提示する ②子どもたちで構成を分け、小見出しを考える ③小見出しと構成の関連、整合を確認するという1時間を加えることで、本時における話し合いの視点が児童にとってより明確になり、対話が活性化されると考えた。

改善のポイント②～本時では児童が対話を行う時間が足りなかったように感じた。授業の前半部である、「意見と事実・感想を分けて書くことの確認」は、前時の調べ学習の後半でおさえおき、話し合い活動の時間を十分に保障するとよいと考えた。